

理工学部、85年の大学史。

特別展 日本大学理工学部史展

平成17年11月6日(日)～平成18年4月28日(金)

理工学部、85年の大学史。

特別展 日本大学理工学部史展

平成17年11月6日(日)～平成18年4月28日(金)

目次

- 1 ● 開催にあたって
- 2 ● 理工学部、85年の大学史。
- 12 ● 土木工学科の歩み
- 14 ● 社会交通工学科の歩み
- 16 ● 建築学科の歩み
- 18 ● 海洋建築工学科の歩み
- 20 ● 機械工学科の歩み
- 22 ● 精密機械工学科の歩み
- 24 ● 航空宇宙工学科の歩み
- 26 ● 電気工学科の歩み
- 28 ● 電子情報工学科の歩み
- 30 ● 物質応用化学科の歩み
- 32 ● 物理学科・量子科学研究所の歩み
- 34 ● 数学科の歩み
- 36 ● 一般教育の歩み
- 38 ● 日本大学大学院理工学研究科の歩み
- 40 ● 日本大学短期大学部(船橋校舎)の歩み
- 42 ● 歴代教室主任一覧

開催にあたって

日本大学理工学部は、その前身である日本大学高等工学校が1920（大正9）年に開校されて以来、2005年で創設85周年を迎えました。

1928（昭和3）年には、私立大学としていち早く大学設置の認可を得て、日本大学工学部を設立し、さらに時代の変化に対応しながら今日の理工学部へと展開してまいりました。この間の華々しい技術刷新の時代の中、“夢と希望と誇り”をもって、社会に飛翔していく卒業生の数は約20万名にも及んでいます。現在もなお、歴史ある理工系大学としての社会的評価のもと、「教育・研究大学」として知力・体力・精神力を備えた「骨太の学生」の発展型として、これら3力にプラスして自立心をもった自己学習・研究能力を有する学生を育成することを目指しています。

総合大学としての日本大学の中にあって、理工学部は常に重要な役割を担ってまいりました。理工学部の発展に寄与された歴代の理工学部長は11名、その中で、第8代の木下茂徳先生と第11代の小嶋勝衛先生のおふたりが日本大学総長という重責を担われてきたこともそのひとつです。

今回の特別展「理工学部、85年の大学史。」は、こうした理工学部の歴史を回顧し、原点に立ち返ることで、将来の理工学部の姿を見据えることを目的として企画されました。その内容は、「日本大学理工学部史」（特別展示）と「小嶋勝衛総長の歩み」（企画展示）、そして理工学部が誇る研究施設の歴史展示「研究施設めぐり」によって構成されています。

85年の歴史に見る先人たちの足跡、学科の歩み、キャンパスの変遷からさまざまな映像や史料を通して振り返ってみたいと思います。

CSTミュージアムでは、諸先輩の方々によって築きあげられた伝統の尊さを次世代に伝えることを目的に、会期中、「科学の日」を定め、科学好きの少年・少女のためのワークショップも企画しています。

この機会に、歴史と伝統を誇る本学部へのご理解を深めていただくとともに、ご支援とご協力をお願い申しあげます。

平成17年11月6日

日本大学理工学部長
日本大学理工学部科学技術史料センター長
越智 光昭（機械工学科 教授）

理工学部、85年の大学史。

世界と日本の主な出来事	西暦	日本大学理工学部
(和暦)		
大日本帝国憲法発布	2	1889 明治22年
ニコライ堂開堂式	3	1890 明治23年
日清戦争勃発 (1895年4月終結)	8	1891 明治24年
アテネで第1回オリンピック開催	4	1894 明治27年
皇太子嘉仁殿下ご成婚	5	1896 明治29年
アメリカのライト兄弟が人類初の動力飛行に成功	12	1898 明治31年
日露戦争勃発 (1905年9月終結)	2	1900 明治33年
伊藤博文暗殺	10	1902 明治35年
明治天皇崩御	7	1903 明治36年
第1次世界大戦勃発 (1914年1月終結)	7	1904 明治37年
東京駅開業	12	1909 明治42年
スペイン風邪大流行	10	1912 昭和(大正)1年
ヴェルサイユ条約締結	6	1914 大正3年
上野公園で日本初のメーデー開催	5	1918 大正7年
		1919 大正8年
		1920 大正9年
		1921 大正10年
10・4 日本法律学校創立。創立者 山田顯義		
9 日本法律学校開校式		
12 財団法人組織となる		
8 校則を改め大学組織となり日本大学と改称		
4 専門学校令による大学となる		
		1922 大正11年
		1923 大正12年
		1924 大正13年
		1925 大正14年
		1926 大正15(昭和1)年
		1927 昭和2年
		1928 昭和3年
9 日本大学高等工学校、三崎町本校舎を仮校舎として開講		

原敬首相暗殺	11	1921 大正10年	4 日本大学高等工学校に機械科設置。9月25日開講
	9		9 学生大会にて大学色を「紅」に決定(熱と力の象徴)
	10		10 『日大新聞』第1号発行(現在の『日本大学新聞』)
			日本大学高等工学校、駿河台北甲賀町に校舎竣工(現理工学部1号館所在地)。翌年1月から新校舎で授業開始
		1922 大正11年	3 総長制度を制定。初代総長に松岡康毅就任 大学旗作製
関東大震災	9	1923 大正12年	3 日本大学校歌改訂(作詞 学生からの公募、作曲 梁田貞)。最初の校歌は大正9年5月制定(作詞 大森洪太、作曲 立松久子)
	9		9 関東大震災により、全施設焼失
	11		11 第2代総長に平沼騏一郎就任 日本大学高等工学校、駿河台仮校舎にて授業再開
		1924 大正13年	3 日本大学工学校設置 (本所横網町日本大学中学校内。入学資格 小学校卒。土木・建築・機械を設置。 修業年限予科1年6ヶ月、本科1年の乙種夜間授業)
	5		5 駿河台校舎で高等工学校校友会創立発会式挙行
	9		9 日本大学商工学校設置 (3月に設立した工学校を吸収。乙種夜間授業で修業年限2年6ヶ月。商・土木・建築・機械・電気を設置。工科関係の卒業者は日本大学高等工学校へ入学を許可)
	10		10 日本大学高等工学校機関誌『駿工』創刊
	4		4 日本大学高等工学校図書館開館
	2		2 日本大学商工学校の工科系を日本大学高等工学校に移管
	4		4 日本大学工学部設置 (神田区駿河台。土木工・建築・機械工・電気工各学科定員60名 計240名。修業年限学部3年、予科2年。予科理科学生募集) 初代工学部長・予科長に佐野利器就任 学科主任 土木工学科 山口昇、建築学科 笠原敏郎、機械工学科 竹村勘悉、電気工学科 鯨井恒太郎
	7		7 工学部1号館竣工(現理工学部駿河台校舎旧1号館)

世界大恐慌 10	1929 昭和4年	3 日本大学専門部工科設置 (神田区駿河台。土木・建築・機械・電気各科定員150名 計600名。修業年限3カ年) 専門部工科長 佐野利器、 科長 土木科 成瀬勝武、建築科 伊部貞吉、機械科 杉村伊兵衛、電気科 大山松次郎 日本大学工業学校設置 (神田区駿河台。入学資格 高等小学校卒。土木・建築・機械各科。修業年限4カ年) 校長に笠原敏郎就任 5 新校歌制定(作詞 相馬御風、作曲 山田耕筰)	1943 昭和18年	東京都政実施 7 理工系以外の学徒徴兵猶予撤廃 10 出陣学徒兵壮行会(明治神宮外苑競技場)
満洲事変勃発 9	1931 昭和6年	1 工学部・予科理科・専門部工科を統合する工科科歌「若きエンジニア」完成(作詞・作曲 堀内敬三) 4 日本大学工学校、本所校舎を駿河台校舎に移転	1944 昭和19年	3 日本大学高等工学校に冶金科設置 6 工科学生勤労動員
桜田門事件 1	1932 昭和7年	8 第3代総長に山岡萬之助就任	1945 昭和20年	7 第4代工学部長に横地伊三郎就任 8 日本大学高等工学校冶金科廃止
五・一五事件 5	1933 昭和8年	2 日本大学高等工学校(2年制)を3年制とする 4 日本大学工業学校に電気科設置	1946 昭和21年	1 第4代総長に吳文炳就任 3 日本大学工学校閉校 6 大学予科を静岡県三島市に開設
日本、国際連盟脱退 3	1934 昭和9年	8 第3代総長に山岡萬之助就任	1947 昭和22年	4 専門部工科を福島県郡山市外(元海軍航空隊敷地)に移転 日本大学高等工学校に電気科設置
二・二六事件 2	1935 昭和10年	2 日本大学高等工学校(2年制)を3年制とする 4 日本大学工業学校に電気科設置	1948 昭和23年	7 工科長 稲田金二郎就任、工学部長 横地伊三郎兼任 3 日本大学高等工学校卒業者を高等学校高等科・大学予科修了者と同等以上と指定
西安事件 12	1936 昭和11年	8 第3代総長に山岡萬之助就任	1949 昭和24年	学制改正により日本大学工業学校を廃止し、日本大学工業高等学校を設置 2 新学制による大学(第一部)設置(教養2年、専門2年の修業年限4カ年) 工学部(現理工学部)土木工・建築・機械工・電気工・工業化学の各学科
蘆溝橋事件、日中戦争勃発 7	1937 昭和12年	12 予科校舎竣工(現文理学部1号館)	1949 昭和24年	第二工学部(現工学部)土木工・建築・機械工・電気工・工業化学の各学科
国家総動員法発令 5	1938 昭和13年	3 工学部・専門部工科・日本大学高等工学校に工業化学科設置 7 工学研究所設置(理物理学研究所の前身)	1949 昭和24年	3 新学制による大学(第二部)設置(修業年限4カ年) 工学部 土木工・建築・機械工・電気工・工業化学の各学科 工学部長・第二工学部長 横地伊三郎兼任
第2次世界大戦勃発 9	1939 昭和14年	11 駿河台校舎3号館竣工 工学部機関誌『駿工』終刊 4 世田谷校舎に大学予科理科(3年制)設置 6 第2代工学部長・専門部工科長に茂庭忠次郎就任 12 駿河台校舎2号館竣工	1949 昭和24年	日本大学高等工学校募集停止 4 学制改正により日本大学専門部工科を新制大学第二工学部に設置移行 三島予科廃止、三島教養部設置
日独伊三国同盟締結 9 紀元二千六百年式典挙行 11	1940 昭和15年	12 3カ月短縮課程上げ卒業 3 第3代工学部長・専門部工科長に竹村勘悉就任	1950 昭和25年	10 日本大学創立60周年記念式典挙行(天皇陛下行幸、法学部大講堂)
太平洋戦争勃発 12	1941 昭和16年	6 朝鮮戦争勃発(1950年7月休戦) 7 金閣寺焼失 警察予備隊創設 池田勇人蔵相「貧乏人は麦を食え」発言	1950 昭和25年	3 日本大学短期大学設置(工業技術科・応用化学科・建設科以上第一部・第二部) 短期大学工科長を工学部長 横地伊三郎兼任
1942 昭和17年		12 1日土木科・電気科を開設		8 日本大学高等工学校を日本大学工業専門校と名称変更し、11月

サンフランシスコ条約調印 日米安全保障条約調印	9	1951 昭和26年	2 財団法人から学校法人へ組織変更 第二工学部に日本大学東北工業高等学校（建設・機械・電気・工業化学・普通）を併設 4 大学院工学研究科修士課程設置（建設工学・機械工学・電気工学・応用化学各専攻） 10 工学研究所『工学部報』第1号発行	安保条約反対闘争 カラーテレビ本放送開始 旧制学位規定終了 ソ連が世界初の有人宇宙船打ち上げに成功 ドイツでベルリンの壁建設	2 1960 昭和35年	3 理工学部工業経営学科の定員を変更し、経営工学科と名称変更 7 理工学部に交通工学科・精密機械工学科設置（認可は翌年3月） 駿河台校舎6号館竣工 3 理工学部（第一部・第二部）入学定員を変更
委託公衆電話登場 血のメーテー事件	2 5	1952 昭和27年	2 工学部に薬学科・工業経営学科設置 10 日本大学短期大学を日本大学短期大学部と名称変更 駿河台校舎4号館竣工	堀江謙一がヨットによる世界初の 単独太平洋横断に成功 キューバ危機	5 1962 昭和37年	3 大学院工学研究科修士・博士課程に物理学・数学・地理学各専攻を設置し、工学研究科を理工学研究科と名称変更 4 理工学部理工学研究所設置 12 日本大学原子力研究所設置
NHKテレビ本放送開始（東京地区） 吉田茂首相「バカヤロー発言」 奄美群島日本復帰	2 12	1953 昭和28年	3 大学院工学研究科博士課程設置（建設工学・機械工学・電気工学・有機応用化学各専攻） 12 工学部第三研究所（現駿河台校舎2号館）3・4階竣工	黒四ダム完成 三井三池炭鉱爆発事故 アメリカ、ケネディ大統領暗殺	6 1963 昭和38年	1 第一工学部（第一部）設置（現生産工学部）（機械工・土木工・建築工・工業化・管理工各学科） 理工学部経営工学科募集停止 4 日本大学工業高等学校定期制募集停止 習志野校舎1・2・3号館竣工
ピキニ水爆実験、第五福竜丸が被曝 自衛隊発足 洞爺丸遭難	3 7 9	1954 昭和29年	4 短期大学部工科（第一部）駿河台校舎より津田沼校舎に移す	東海道新幹線開通 東京オリンピック	10 1964 昭和39年	1 第一工学部に電気工・統計各学科設置、生産工学部と名称変更 第二工学部を工学部と名称変更 4 日本大学工業高等学校に全日制設置、船橋市習志野台に移転 1 第一工学部電気工・統計各学科設置、生産工学部と名称変更 第二工学部を工学部と名称変更 4 日本大学工業高等学校に全日制設置、船橋市習志野台に移転
日ソ国交回復	12	1956 昭和31年	1 工学部校友会『桜工』創刊 3 日本大学工業専門校閉校	ベトナム戦争勃発（1973年1月終結） 日韓基本条約成立 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞	2 1965 昭和40年	1 第一工学部（第一部）設置（現生産工学部）（機械工・土木工・建築工・工業化・管理工各学科） 理工学部経営工学科募集停止 4 日本大学工業高等学校定期制募集停止 習志野校舎1・2・3号館竣工
南極大陸に昭和基地設置 日本、国際連合に加盟	1 3	1957 昭和32年	4 工学部工業経営学科、津田沼校舎で授業開始	日本の人口が1億人を突破	3 1966 昭和41年	1 第一工学部に電気工・統計各学科設置、生産工学部と名称変更 第二工学部を工学部と名称変更 4 日本大学工業高等学校に全日制設置、船橋市習志野台に移転 1 第一工学部に電気工・統計各学科設置、生産工学部と名称変更 第二工学部を工学部と名称変更 4 日本大学工業高等学校に全日制設置、船橋市習志野台に移転
日本初の観測用ロケット「カッパー4C」 1号機の打ち上げに成功 茨城県東海村の日本原子力研究所で、 日本初の「原子の火」が点灯 ソ連が世界初の人工衛星 「スプートニク1号」の打ち上げに成功	8 10	1958 昭和33年	1 工学部に物理学科を設置し、理工学部と名称変更 第一部（土木工・建築・機械工・電気工・工業化・薬・工業経営・物理各学科） 第二部（土木工・建築・機械工・電気工・工業化各学科） 理工学部長に横地伊三郎就任 6 第5代総長に永田菊四郎就任 12 『桜門』創刊、学部旗の旗色を「緋」に統一 理工学部試作実験室三棟他竣工（江東区大島）	ザ・ビートルズ来日 東大全学闘争委員会、安田講堂を占拠 3億円事件 川端康成、ノーベル文学賞受賞	3 1967 昭和42年	1 第一工学部に電気工・統計各学科設置、生産工学部と名称変更 第二工学部を工学部と名称変更 4 短期大学部工科（駿河台）を習志野校舎に移転 8 学長・理工学部長・生産工学部長・工学部長・短期大学部工科長 横地伊三郎辞任（8月2日逝去） 第5代理工学部長に齋藤謙次就任 駿河台校舎7・8号館竣工 習志野校舎5・6・8・9号館・測量実験棟竣工
東京・神宮外苑に国立競技場完成 東京・芝公園に東京タワー完成	3 12	1959 昭和34年	1 理工学部に数学科（第一部・第二部）設置 2 理工学部に核融合研究室を開設 10 日本大学創立70周年記念式典挙行（天皇・皇后両陛下御臨幸） 駿河台校舎5号館竣工	3 東大全学闘争委員会、安田講堂を占拠 3億円事件 川端康成、ノーベル文学賞受賞	3 1968 昭和43年	3 理工学部教養課程を文理学部より理工学部習志野校舎に移転 6 法学部学生スト権確立、ストに突入、これより9月21日まで各学部は順次ストに突入 9 日大講堂にて大衆団交、九項目要求事項を確約 12 経済学部（第二部）日大講堂で授業再開、これより翌年6月まで各学部は順次授業を再開

東大安田講堂占拠の学生排除 「全共闘会議」結成（秋田明大議長） 日本の GNP が西側諸国で第 2 位に アメリカのアポロ 11 号が月面着陸成功	1 5 6 7	1969 昭和44年	9 第 6 代総長に鈴木勝就任		新東京国際空港開港 日中平和友好条約調印	3 8	1978 昭和53年	3 習志野校舎 10・11 号館・食堂棟・軽食堂棟・購買部棟竣工 日本大学習志野高等学校建築科・土木科廃止
東大宇宙航空研究所が国産初の 人工衛星「おおすみ」打ち上げに成功 よど号事件 日本万国博覧会開催	2 3 3	1970 昭和45年	7 第 6 代理工学部長・短期大学部工科長に木村秀政就任				4 理工学部第二部募集停止	日本大学北極点遠征隊が日本人として初めて北極点到達
ドル・ショックで東京株式史上最大の暴落	8	1971 昭和46年	5 図書館竣工（習志野） 7 理工学部機関誌『理工サークル』創刊 10 駿河台校舎に電子計算機室完成				3 大学院理工学研究科博士前期・後期課程に交通土木工学・海洋建築工学・精密機械工学・航空宇宙工学・電子工学各専攻設置	
札幌冬季オリンピック 浅間山荘事件 沖縄復帰 日中國交正常化	2 2 5 9	1972 昭和47年	4 建築学科（海洋建築コース）、機械工学科（航空宇宙コース）、電気工学科（電子コース）、3 コース設置 9 駿河台校舎 9 号館竣工 物理実験棟・セミナーハウス笠原記念館竣工（習志野）		1億円拾得事件 イラン・イラク戦争勃発（1980 年 8 月終結）	4 9	1980 昭和55年	8 総合水槽実験棟完成（習志野） 9 理工学部交通工学科を交通土木工学科と名称変更 3 中央庭園完成（習志野） 4 習志野校舎に L.L 教室完成
金大中事件 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞	8 12	1973 昭和48年	1 交通総合試験路・運動場完成（習志野） 3 大学院理工学研究科修士・博士課程建設工学専攻を土木工学専攻・建築学専攻に分離 大学院理工学研究科修士課程応用化学専攻と博士課程有機応用化学専攻を修士・博士課程工業化学専攻と変更 4 分析センター完成（駿河台） 7 階段教室・海洋建築実験研究棟・薬用植物園管理棟竣工（習志野） 10 第 7 代理工学部長に加藤涉就任		福井謙一、ノーベル化学賞受賞	12	1981 昭和56年	3 理工学部習志野校舎から生産工学部移転完了 9 習志野校舎 12 号館竣工
佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞	12	1974 昭和49年	3 日本大学工業専門校廃止 日本大学工業高等学校定時制課程を廃止、日本大学習志野高等学校と名称変更		ホテル・ニュージャパン火災	2	1982 昭和57年	3 日本大学講堂（両国）廃止 7 日本大学会館設置、本部移転
ロッキー事件 田中角栄前首相逮捕	2 7	1975 昭和50年	12 大型構造物試験棟・風洞実験室竣工（習志野）		東京ディズニーランド開園 日本海中部地震 大韓航空機墜落事件	4 5 9	1983 昭和58年	9 理工学部第二部土木・建築・機械工・電気工・工業化・数各学科廃止 「理工学部第一部並びに理工学部第二部」を「理工学部」と改称
王貞治ホームラン世界記録達成（756 本） 日航機ハイジャック事件	9	1976 昭和51年	11 短期大学部第二部建設科・工業技術科・応用化学科廃止		グリコ・森永事件	3	1984 昭和59年	7 「工科山の家」使用中止 9 第 7 代総長に高梨公之就任
		1977 昭和52年	1 人力飛行機世界記録樹立 (理工学部機械工学科航空専修コース人力飛行機研究グループ製作「ストーク B 号」 飛行距離 2093.9m 滞空時間 4 分 27 秒 80) 12 理工学部第一部に海洋建築工学科・航空宇宙工学科・電子工学科設置		建築学科に建築学コース・企画経営コース設置 電子工学科に電子工学コース・情報科学コース設置 薬学科に薬学コース・生物薬学コース設置 理工学部大講堂兼体育館竣工（習志野） 11 機械実習所竣工（習志野）			
					日航ジャンボ機、御巣鷹山に墜落	8	1985 昭和60年	7 第 8 代理工学部長に木下茂徳就任 11 理工学部関係物故者追悼慰靈祭挙行（遺族 73 名参加）
					アメリカのスペースシャトル 「チャレンジャー」爆発 ソ連、 Chernobyl 原発事故	1 4	1986 昭和61年	
					国鉄分割・民営化、JR スタート 利根川進、ノーベル医学・生理学賞受賞	4 12	1987 昭和62年	7 測量実習センター竣工（習志野） 12 薬学科が分離独立し、日本大学薬学部（薬学科・生物薬学科）設置

1987 昭和62年	12 理工学部OBのモーターグライダー「チロル号」2000km 飛行成功
青函トンネル開業 3 瀬戸大橋開通 4 リクルート疑惑 6	9 「工科山の家」閉鎖
昭和天皇崩御 1 消費税スタート（3%） 4 中国で第2次天安門事件 6 ペルリンの壁崩壊 11	10 日本大学創立100周年記念式典挙行（天皇・皇后両陛下御臨幸）
秋山豊寛、日本人初の宇宙飛行 12	6 理工学部創設70周年記念式典挙行
湾岸戦争勃発 1 ソ連崩壊 8	9 第8代総長に木下茂徳就任（理工学部教授）
1990 平成2年	4 第9代理工学部長に新澤順悦就任
サッカーJリーグ開幕 5 皇太子徳仁殿下ご成婚 6	4 大学院理工学研究科博士前期課程に不動産科学、医療・福祉工学、情報科学、量子理工学の4専攻を設置
大江健三郎、ノーベル文学賞受賞 12	6 日本大学八海山セミナーハウス竣工
阪神大震災 1 地下鉄サリン事件 3	9 第9代総長に瀬在良男就任
ペルー日本大使公邸人質事件 12	4 第10代理工学部長に和井内徹就任
消費税5%に引き上げ 4 香港返還 7	4 大学院理工学研究科博士前期課程不動産科学、医療・福祉工学、情報科学、量子理工学の4専攻に博士後期課程を設置
初の脳死判定による心臓・肝臓移植 2 東海村の核燃料工場で日本初の臨界事故 9	7 先端材料科学センター竣工（船橋）
白川英樹、ノーベル化学賞受賞 12	4 東葉高速鉄道「船橋日大前」駅開設。習志野校舎を船橋校舎と名称変更
9・11アメリカ同時多発テロ 9 野依良治、ノーベル化学賞受賞 12	9 第10代総長に瀬在幸安就任
2000 平成12年	4 第11代理工学部長に小嶋勝衛就任
2001 平成13年	4 工業化学科を物質応用化学科と名称変更
	3 環境・防災都市共同研究センター竣工（船橋）
	6 「工科校友会」を「理工学部校友会」と名称変更
	理工学部創設80周年記念式典挙行
	12 さようなら“駿河台1号館”式典挙行
	4 交通土木工学科を社会交通工学科、電子工学科を電子情報工学科、大学院理工学研究科博士前期・後期課程交通土木工学専攻を社会交通工学専攻と名称変更

2002 平成14年	9 日朝首脳会談 小柴昌俊がノーベル物理学賞、12 田中耕一がノーベル化学賞受賞
2003 平成15年	3 アメリカ軍、イラクに侵攻
2004 平成16年	1 自衛隊イラク派遣
2005 平成17年	4 JR福知山線脱線事故
	3 マイクロ機能デバイス研究センター竣工（船橋）
	9 第11代総長に小嶋勝衛就任（理工学部教授）
	10 第12代理工学部長に越智光昭就任

※出展 〈大学史〉 書籍…『日本大学理工学部五十年史』、『日本大学理工学部60年史 71-80のあゆみ』、『伝統と情熱の70年史 日本大学理工学部』、『日本大学百年史』、『理工学部自己点検・評価報告書』
 Webサイト…『日本大学ホームページ』
 〈時代背景〉 Webサイト…『ザ・20世紀』「歴史データベース on the Web」

機械工学科の歩み

機械工学科は、現理工学部の前身にあたる日本大学高等工学校が開校した1920（大正9）年の翌1921（大正10）年に機械科として開設され、初代学科教室主任は竹村勘悉先生であった。

1929（昭和4）年には工学部設置に伴い専門部工科・機械学科として開設された。当時の学科教室主任は杉村伊兵衛先生がされていた。

1949（昭和24）年には新学制工学部一部・二部発足に伴い、機械工学科として現行の原形が形成された。この際、学科主任は小川清二先生が担当されていた。この新学制に連動し、4年後の1953（昭和28）年には工学研究科博士課程機械工学が設置された。

機械工学科40周年の翌年にあたる1962（昭和37）年1月から1978（昭和53）年9月まで栗野誠一先生が学科教室主任を担当した。栗野先生は理工学部第一部学監（1964（昭和39）年7月～1970（昭和45）年7月）、理工学部第二部学監（1968（昭和43）年2月～1970（昭和45）年7月）も兼務する。この間、1965（昭和40）年に習志野校舎（現・船橋校舎）に機械系中央実験室が、1973（昭和48）年に駿河台校舎に試作工場印刷室が設置された。また、カリキュラムに関連し、1969（昭和44）年には学部1年生が習志野校舎で授業を受け、2年次から駿河台校舎に移行する現在の形態が開始された。また、1972（昭和47）年からは航空専修コースが完全独立し、1977（昭和52）年の航空宇宙工学科設置へつながる。1976（昭和51）年4月には、学科内での教員・学生ならびに父母間での情報共有ならびにコミュニケーションを促進する目的から学科雑誌「だんらん」が復刊され、1998（平成10）年まで37号が発刊された。現在では、「だんらん」の情報伝達・共有の役目の一翼を学科ホームページが担っている。なお、学科専用ネットワークに関しては、1994（平成6）年に李和樹先生を中心とした学科ネットワーク管理グループが敷設・稼働開始させ、現在では各種サーバならびに学科機材予約システムやメーリングリストなど情報サービスの基幹となっている。

1978（昭和53）年10月から1984（昭和59）年9月までは、新澤順悦先生が学科教室主任を務められ、その間の1983（昭和58）年には機械工学科第二部が廃止された。

1984年10月には、齋間厚先生が学科教室主任に就かれた。これ以降、教室主任は1期2年の形態が確立され、現在まで継承されている。同年12月には、1958（昭和33）年から稼働していた大島実験所が習志野校舎へ移転し、同時に名称を機械実習所と改称した。

1986（昭和61）年からは、景山克三先生が学科教室主任に就かれた。

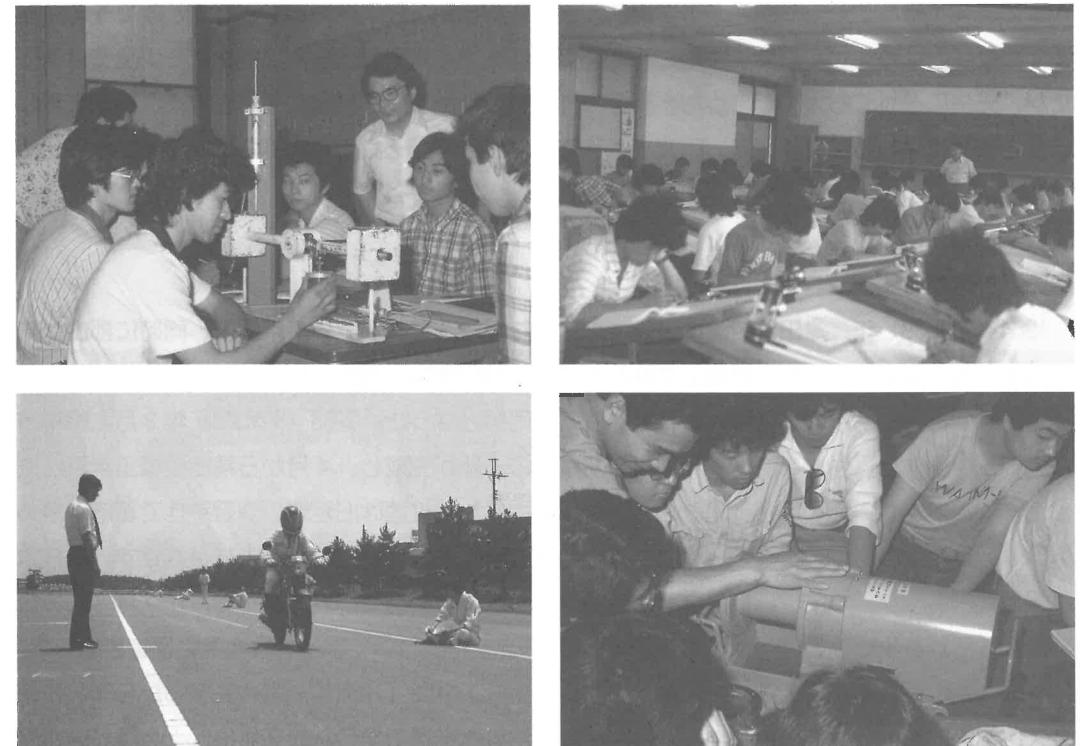
1987（昭和62）年9月には新澤順悦先生が、駿河台校舎次長へ就任され、1991（平成3）年4月には理工学部長へ就任。1993（平成5）年9月からは日本大学副総長を兼務するなど、要職を歴任された。

長尾弘先生が学科教室主任をされていた1989（平成元）年にはカリキュラムの大幅改定を実施し、以降、1998年と2002（平成14）年に学科カリキュラム改定が実施されている。加えて、岡野道治先生が学科教室主任の2001（平成13）年12月には、社会情勢に併せてJABEEの試行審査の受審を実施した。

1995（平成7）年4月に第1回 Pacific Asia Conference on Mechanical Engineering (PACME) を理工学部海外提携校であるフィリピン工科大学 (Technological University of the Philippines) と機械工学科とが共催し、フィリピン共和国マニラにおいて開催した。このPACMEには機械工学科の大学院生を含め理工学部、生産工学部、工学部から参加した。続いで1998年に2nd PACME、2002年に3rd PACMEを開催した。

学生の学科への帰属意識の向上ならびに学生・教員間のコミュニケーションの機会として、西村哲先生が学科教室主任の1997（平成9）年の新入学生から、4月に日本大学八海山セミナーハウスを利用した1泊2日の新入生オリエンテーションが開始され、2000（平成12）年まで八海山が利用された。現在も新入生オリエンテーションについては船橋校舎を利用し継続されている。

4枚とも1985年作成パンフレットより



歴代教室主任一覧 1968(昭和43)年~

土木工学科	栗津 清蔵 (昭43.4.1~昭59.9.30)	北田 勇輔 (昭59.10.1~平元.10.31)	山田 清臣 (平元.11.1~平4.9.30)	竹澤 三雄 (平4.10.1~平6.9.30)	阿部 賴政 (平6.10.1~平8.9.30)
	大津 岩夫 (平8.10.1~平10.9.30)	田中 和博 (平10.10.1~平12.9.30)	山崎 淳 (平12.10.1~平14.9.30)	島崎 敏一 (平14.10.1~平16.9.30)	野村 卓史 (平16.10.1~)
交通工学科 交通土木工学科 (昭49.9.1)	当山 道三 (昭37.3.1~昭43.10.22)	小川 元 (昭43.10.23~昭45.10.22)	関慎吾 (昭45.10.23~昭49.10.31)	小川 元 (昭49.11.1~昭53.9.30)	浅川 美利 (昭53.10.1~昭57.9.30)
	色部 誠 (昭57.10.1~昭61.9.30)	榛澤 芳雄 (昭61.10.1~平2.9.30)	三浦 裕二 (平2.10.1~平6.9.30)	高田 邦道 (平6.10.1~平8.9.30)	宮森 建樹 (平8.10.1~平10.9.30)
社会交通工学科 (平13.4.1)	巻内 勝彦 (平10.10.1~平14.9.30)	星埜 正明 (平14.10.1~)			
建築学科	加藤 渉 (昭43.4.1~昭48.9.5)	市川 清志 (昭48.9.6~昭52.9.30)	田治見 宏 (昭52.10.1~昭60.3.31)	佐藤 稔雄 (昭60.4.1~昭62.9.30)	木村 翔 (昭62.10.1~平9.9.30)
	斎藤 公男 (平9.10.1~平13.9.30)	片桐 正大 (平13.10.1~平17.9.30)	白井 伸明 (平17.10.1~)		
海洋建築工学科 (昭52.12.1)	佐久田 昌昭 (昭52.12.1~昭53.4.1) (部内)	佐久田 昌昭 (昭53.4.1~昭58.9.30)	西村 敏雄 (昭58.10.1~昭62.9.30)	小林 美夫 (昭62.10.1~平元.9.30)	佐久田 昌昭 (平元.10.1~平2.10.31)
	安達 洋 (平2.11.1~平3.9.30)	佐久田 昌昭 (平3.10.1~平5.9.30)	安達 洋 (平5.10.1~平7.9.30)	増田 光一 (平7.10.1~平15.9.30)	近藤 健雄 (平15.10.1~)
機械工学科	倉西 正嗣 (昭43.4.1~昭43.10.22)	佐貫 亦男 (昭43.10.23~昭47.10.22)	栗野 誠一 (昭47.10.23~昭53.9.30)	新澤 順悦 (昭53.10.1~昭59.9.30)	斎間 厚 (昭59.10.1~昭61.9.30)
	景山 克三 (昭61.10.1~昭63.9.30)	長尾 弘 (昭63.10.1~平2.9.30)	甲藤 好郎 (平2.10.1~平4.9.30)	内田 幸彦 (平4.10.1~平6.9.30)	庄司 秀夫 (平6.10.1~平8.9.30)
	西村 哲 (平8.10.1~平10.9.30)	越智 光昭 (平10.10.1~平12.9.30)	岡野 道治 (平12.10.1~平14.9.30)	藤田 肇 (平14.10.1~平16.9.30)	松本 彰 (平16.10.1~)
精密機械工学科	木村 秀政 (昭43.4.1~昭43.10.22)	松代 正三 (昭43.10.23~昭48.11.30)	石塚 武 (昭48.12.1~昭52.9.30)	小松 安雄 (昭52.10.1~昭56.9.30)	吉田 義之 (昭56.10.1~昭62.9.30)
	伊藤 堅 (昭62.10.1~平3.9.30)	斎藤 篤 (平3.10.1~平13.9.30)	川幡 長勝 (平13.10.1~平17.9.30)	町田 信夫 (平17.10.1~)	
航空宇宙工学科 (昭52.12.1)	横井 鍊三 (昭53.4.1~昭56.9.30)	河村 龍馬 (昭56.10.1~昭60.9.30)	牧野 光雄 (昭60.10.1~平元.9.30)	本橋 龍郎 (平元.10.1~平3.9.30)	江良 嘉信 (平3.10.1~平5.9.30)
	本橋 龍郎 (平5.10.1~平7.9.30)	中村 義隆 (平7.10.1~平10.2.11)	青木 清 (平10.2.12~平11.9.30)	川島 孝幸 (平11.10.1~平17.10.31)	石川 芳男 (平17.10.1~)
電気工学科	今川 三郎 (昭43.4.1~昭43.10.31)	三宅 康友 (昭43.11.1~昭47.10.22)	山本 滋 (昭47.11.2~昭49.11.7)	細野 敏夫 (昭49.11.8~昭52.9.30)	宮城 弘 (昭52.10.1~昭60.10.1)

電気工学科	日向 隆 (昭60.10.1~昭62.9.30)	宮城 弘 (昭62.10.1~平元.9.26) 死亡退職	中田 順治 (平元.10.1~平5.9.30)	石井 弘允 (平5.10.1~平11.9.30)	河村 清 (平11.10.1~平17.9.30)
	山崎 恒樹 (平17.10.1~)				
電子工学科 電子情報工学科 (平13.4.1)	高木 昇 (昭52.12.1) (部内)	川西 健次 (昭53.4.1~昭60.3.31)	田中 正一 (昭60.4.1~昭62.9.30)	高橋 寛 (昭62.10.1~平元.9.30)	長谷部 望 (平元.10.1~平3.9.30)
	高橋 寛 (平3.10.1~平7.9.30)	関根 好文 (平7.10.1~平9.9.30)	長谷部 望 (平9.10.1~平11.9.30)	伊藤 彰義 (平11.10.1~平15.9.30)	中村 英夫 (平15.10.1~)
工業化学科 物質応用化学科 (平11.4.1)	金丸 競 (昭43.4.1~昭44.4.30)	松本 太郎 (昭44.5.1~昭46.4.30)	内海 喻 (昭46.5.1~昭48.9.30)	小島 和夫 (昭48.10.1~昭50.9.30)	内海 喻 (昭50.5.1~昭52.9.30)
	小島 和夫 (昭52.10.1~昭54.9.30)	和井内 徹 (昭54.10.1~昭56.9.30)	小島 和夫 (昭56.10.1~昭58.9.30)	和井内 徹 (昭58.10.1~昭60.9.30)	小島 和夫 (昭60.10.1~昭62.9.30)
物理学科	和井内 徹 (昭62.10.1~平元.9.30)	小島 和夫 (平元.10.1~平3.9.30)	荒井 康夫 (平3.10.1~平5.9.30)	越智 健二 (平5.10.1~平7.9.30)	真下 清 (平7.10.1~平9.9.30)
	栗田 公夫 (平9.10.1~平11.9.30)	矢野 彰一郎 (平11.10.1~平13.9.30)	安江 任 (平13.10.1~平15.9.30)	秋久 俊博 (平15.10.1~平17.9.30)	澤口 孝志 (平17.10.1~)
数学科	原治 (昭43.4.1~昭43.10.22)	吉村 久光 (昭43.10.23~昭44.9.30)	横田 昌広 (昭44.10.1~昭46.12.12)	市川 芳彦 (昭46.12.13~昭48.9.30)	後藤 鉄男 (昭48.10.1~昭51.3.30)
	浜田 繁雄 (平51.4.1~昭53.9.30)	出雲 鴻 (昭53.10.1~昭55.9.30)	佐藤 正知 (昭55.10.1~昭57.9.30)	三沢 節夫 (昭57.10.1~昭61.9.30)	関澤 和子 (昭61.10.1~昭63.9.30)
一般教育	男沢 淳 (昭63.10.1~平2.9.30)	西尾 成子 (平2.10.1~平4.9.30)	紺野 公明 (平4.10.1~平6.9.30)	野木 靖之 (平6.10.1~平8.9.30)	藤田 丈久 (平8.10.1~平10.9.30)
	野木 靖之 (10.10.1~平12.9.30)	仲 滋文 (平12.10.1~平16.9.30)	久保田 洋二 (平16.10.1~)		
原子力研究所 量子科学研究所 (平14.3.1)	宇野 利雄 (昭43.4.1~昭47.3.31)	壬生 雅道 (昭47.4.1~昭49.3.31)	菊地 重隆 (昭49.4.1~昭58.9.30)	山中 健 (昭58.10.1~昭62.9.30)	枝松 孝 (昭62.10.1~平3.9.30)
	山中 健 (平3.10.1~平7.9.30)	松元 重則 (平7.10.1~平9.9.30)	佐々木 隆二 (平9.10.1~平16.3.31)	上坂 洋司 (平16.4.1~)	
葉学科	道広 智 (昭43.4.1~昭43.10.22)	古館 喜代治 (昭43.10.23~昭50.2.5)	斎藤 肇 (昭50.2.6~昭54.9.30)	斎藤 正三 (昭54.10.1~昭58.9.30)	桑山 泰助 (昭58.10.1~昭62.9.30)
	宮木 昭 (昭62.10.1~平2.1.15)	桑山 泰助 (代理) (平2.4.1~平5.9.30)	桑山 泰助 (平2.4.1~平5.9.30)	岡村 浩志 (平5.10.1~平9.9.30)	古賀 義弘 (平9.10.1~平13.9.30)
植物学科	橋口 泰武 (平13.10.1~平17.9.30)	田中 久文 (平17.10.1~)			
	石田 晋 (昭61.4.1~昭63.9.30)	川上 一郎 (昭63.10.1~平4.9.30)	石田 晋 (平4.10.1~平6.9.30)	宮本 徹 (平6.10.1~平10.9.30)	小林 久恭 (平10.10.1~平12.9.30)
微生物学科	蔡 勝義 (平12.10.1~平14.9.30)	斎藤 勝宣 (平14.10.1~)			
	木村 雄四郎 (昭37.4.1~昭43.3.31)	黒柳 惣十 (昭43.4.1~昭50.3.31)	桐沢 誠 (昭50.4.1~昭52.3.31)	里見 政吉 (昭52.4.1~昭54.9.30)	滝戸 道夫 (昭54.10.1~昭56.9.30)
生物学科	桐沢 誠 (昭56.10.1~昭63.3.31)	澤村 良二 (昭63.4.1~平2.3.31)	渡辺 和子 (平2.4.1~平3.3.31)		

理工学部、85年の大学史。

平成17年11月6日(日)～平成18年4月28日(金)

特別展

日本大学理工学部史展

理工学部は、2005年、前身である日本大学高等工学校の開校以来、創設85年を迎えました。その間、時代の変遷とともに発展を続けて、今日に至っています。大きな流れの中で、学科の歩み、キャンパスの歩みをパネル、映像や史料を展示することにより85年の大学史を振り返ります。

同時企画開催：研究施設めぐり

- 大型構造物試験棟「日本初の大型構造物試験機、建設秘話」
- 風洞実験室（5号館2階）「人力飛行機の軌跡」
- 情報教育研究センター「現在（いま）も使われる理工学部初のコンピュータ」
- 測量実習センター「測量機器の変遷」

企画展示コーナー

小嶋勝衛総長の「歩み」展



あとがき

本誌は、CSTミュージアム「特別展」のために制作したものです。限られた展示スペースの中では、各学科の紹介まで至らなかつたため、急遽、後期授業開始の多忙な折に教室主任の先生方へ「学科史」の執筆をお願いしました。本誌の編集作業が短時間であったため、趣旨が徹底せず、全体の統一を図ることができませんでしたが、将来刊行されるであろう理工学部90年史、100年史の礎になれば幸甚です。史料提供等ご協力をいただいた教職員の方々に深謝します。

平成17年10月

(CSTミュージアム「特別展」小委員会)

理工学部、85年の大学史。

特別展 日本大学理工学部史展

会期：平成17年11月6日(日)～平成18年4月28日(金)

2005年11月6日発行

発行 日本大学理工学部科学技術史料センター
〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
電話 047-469-6372
FAX 047-469-6317
<http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/>



CST MUSEUM

日本大学理工学部科学技術史料センター

開館時間：月曜日～土曜日 午前10時～午後5時

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 5号館2階

● Tel. 047-469-6372 ● <http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/>

